

令和3年度 島田市立島田第二中学校



二中だより 5月号

☆校訓 文化の薫る学校の創造
☆学校教育目標 「こころざしを持ち 自分の道を切り拓く生徒」

令和3年5月7日 発行

○ “文化の薫る学校”を支えるために、まず読書から！

毎朝、読書の時間にクラスを巡回していると、登校後、読書への切り替えが大変スムーズにできるクラスが多くなってきました。特に2,3年生の読書への集中力は、凄味さえ感じます。1年生はまだ慣れていないのかも知れませんが、上級生のように「パッと切り替えて、ぐっと集中する習慣」を繰り返し身に染み込ませましょう。必ず集中力が付き、学習が向上します。

さて、文化というと合唱、吹奏楽、美術など芸術分野を思い浮かべるかも知れませんが、文化を底で支えるのは、「読書(=学びに向かう力)」だと私は思います。昨年度、朝読書を5分から10分へ延長しましたが、教育課程アンケートでは、「本が好き」「本を家で読む」「本を1か月4冊以上読む」が4~6%向上し、島二中の弱点が回復しました。

また、「読書と読解力や国語テストとの相関」についてベネッセが公表したレポートには、「全く本を読まない子より本を読んでいる子の方が、読解力も国語テストもスコアが高くなった」という結果が出ています。更に、「読書4,5冊/月以上になると、多くのジャンルの本を読んでいる子の方が読解力や国語テストの結果が高くなった」というデータも出ています。つまり、本を読む子は読まない子より、読解力や国語テストのスコアが高くなるが、月4,5冊を超えると「多分野読書」の子の方は、更に高くなるというものです。島二中が「多分野読書」を推奨している所以です。

○ 湊かなえさんを知っていますか？(4/22NHK-TV「達人達」湊かなえ&佐野正幸から)

嫉妬や悪意に満ちた心理描写が得意で、イヤミス女王と言われる湊さん。ハッピーエンドにしない理由について、「後で考えさせ、読んだ人に余白を埋めてほしい」と語っていました。数々のヒットを生み出す多彩な表現力はどこから来るのかとの質問に、湊さんは、①読書(たくさん読んで言葉を知ると知っている言葉だけ感情を表現できる)、②手紙を書くこと(青年海外協力隊でトンガから日本の知人へ書いた手紙が文章の勉強になった)と答えています。また、「カケラ」という本の題名は、ハマっていたジグソーパズルがヒントで、「ここだ!」と思っても、上手くハマらず歪みが生まれることがある。そのような時は無理してハメなくていい。今しんどい人もパズルのように自分がぴったりはまる場所は、この世の中に必ずある」という言葉は、中学生にも伝えたい言葉です。

もう一人は、劇団四季の「オペラ座の怪人」の第一人者、佐野正幸氏(藤枝西益津中出身)。日本初演時から怪人を歌ってきたそうですが、音符に流されない歌詞へのこだわり、劇団四季創設者・演出家である浅利慶太氏の「居て、捨て、語れ」についての話が印象的でした。それは、島二中の合唱における歌詞の重要さや、演技や台詞において「まず、当事者となり、表面的な演技を捨て、心の底から本音で語れ」ということで、学級合唱や高校入試・就職試験の面接などにも通じるかも知れません。

○ 将来の健康に食はととても重要なもの！

栄養バランスのよい食習慣の人は、そうでない人と比較して健康や死亡のリスクが低くなることは様々な機関から報告されています。昨年度、給食担当の先生が、島二中の残食量が減るよう呼び掛け、担任の先生とも協力して、「ごまあえ27%→12.5%」等の大きな向上が見られました。今年度も、①給食を分け切る。②食べる量を増やす。③意識して野菜を取る。この3つをお願いします。参考までに島二中人気メニューは、ハンバーガー、唐揚げ等ですが、逆に島二中三大残食メニューは、★「サラダ(海藻・コーン、サラダ、ごまあえ等)」★「野菜スープ(たまご系野菜スープ、ミネストローネ等)」★「小松菜料理全般」です。この3点は、ご家庭でもご承知いただき、将来の本人の健康のために、野菜を多く取る食生活を是非、見直していただけたら幸いです。



島田第二中学校 校長 池谷英人

